

～ 令和7年度 全国学力学習状況調査 本校結果 ～

3年生を対象に全国学力学習状況調査が4月に行われました。本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、以下の目的で実施されています。

- ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

全国の結果はすでに公表及び報道がされていますが、今回本校の結果が判明しましたので、本校教諭による分析とともに概要をお伝えいたします。

【国語】

全ての問題において、全国(7.6/14)・群馬県(7.7/14)の平均を大きく上回る高い正答率(10.6/14)であった。本校の生徒が日々の授業に集中して取り組み、学習指導要領の内容をしっかりと身につけていると言える結果である。観点別で見ると、「知識及び技能」はもちろんだが、「思考力・判断力・表現力」が高い水準であることが強みであるといえる。

全国平均と比較して著しく正答率の高かった問題として、

- 1ー三「文章表現の意図をくみ取る問題」
- 1ー四「条件を考慮しての作文問題」
- 3ー四「文章比較とその効果・意図を考え、述べる問題」
- 4ー二「条件を考慮しての作文問題」

が挙げられる。共通していえることは他者の意図を汲み取りつつ、自分の考えをもち、それが伝わるように工夫をし、表現していく能力が高いといえる。実際の場面での国語力・生きる力に長けているともいえる。これは、日々の継続的な協同学習の成果ともいえるのではないかと考えられる。

しかし、「3ー四」と「4ー二」に関しては、全国と比べた際の正答率が高いが、正答率そのものが高いわけではない。継続して活動を行っていく必要がある。

「3ー四」に関しては、全国の無回答率も33.5%と一番高く、応用的な高難度の問題ではあったと考えられる。本校の無回答率は5.9%であり、全国と比べると低い水準ではあるが、慢心せずに課題として捉えていく必要があるだろう。文章比較を行い相違点を明確にし、作者の意図を探るという活動は授業でも行っているが、今後強化していきたい。

特筆すべき点としては、「3ー四」以外の問題に対しては、無回答で済ませる生徒がほとんどおらず、難しい問題に対しても、最後まで粘り強く取り組む姿勢が身に付いていると言えます。そのことは、学習状況調査において、解答を文章で書く問題について「どのように解答しましたか」という質問に対し、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた生徒が96.8%であることから伺えます(全国・県の平均いずれも72%未満)。また、本調査の「解答時間が十分だった」と感じている生徒の割合も全国・県平均を上回っており、解答に必要な基礎学力が概ね身に付いていると考えられます。

【数学】

数と式、図形、関数、データの活用の4つの分野の全てにおいて、全国平均正答率を大きく上回る正解率となりました。特に、「説明する」「証明する」などの問題においては、全国平均正答率から40ポイント以上上回る結果となりました。本校での学習活動を通じて、自分の考えを筋道立てて表現する力が育まれていることが読み取れます。

学習状況調査からは、「数学の勉強は好きである」の質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒は70%以上となりました。また、「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」の質問に対しては、全国平均正答率と比べて15ポイント以上高い割合で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えています。この活動が上記の好結果にもつながっていると考えられます。

一方で、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した生徒が全国平均より5ポイント程低い結果となりました。今後は日々の授業の中で、数学の有用性をより一層感じさせる機会をつくる必要があると考えられます。そして、これからの時代に求められる学力の伸長を目指していきたいと考えます。

【理 科】

学力調査では全国正答率を大きく上回る正答率となり、「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」の4つの領域すべてにおいて全国正答率を上回りました。特に全国的には無回答率の割合が高い記述問題を含め、本校は無回答率の割合が全問通して非常に低い値であり、科学的な知識と思考力を有し、適切に表現できる生徒が多いことが分かります。

学習状況調査からは「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思うか」、「理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っているか」、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」の質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が全国の平均を大きく上回っていました。このことから、本校の生徒は、理科で学習した内容を探究心をもって振り返り、普段の生活や将来に結び付けて考えられている生徒が多いことが分かります。

一方で、問題番号1(5)「塩素の元素記号を記述する」問題のみ、全国正答率と正答率が同程度であったため、思考力や表現力を高めつつ、基礎基本の今以上の定着を図っていきたいと考えます。

【全体総括】

今年度実施された全国学力・学習状況調査では、国語・数学・理科の3教科が対象となり、すべての教科において全国平均、群馬県平均を大きく上回る正答率でした。日々の授業の積み重ねの成果が現れた結果となったことは、保護者の皆様のご支援とご家庭での温かい見守りのおかげと感謝しております。本校では、学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を育むことを目指し、日々の授業改善に努めています。今後も、子どもたちがより深く学び、自ら考えて学びに向かっていけるような授業づくりを継続してまいります。

併せて行われた学習状況調査では、全国や群馬県の平均と比較して以下のような特徴的な結果が見られました。「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学びを考え、工夫することはできていますか」という設問に対して、肯定的な回答は全国平均を約10%上回りました。また、ICT機器の活用に関する項目(PCやタブレットを使って文章を作成したり、情報を整理したり、プレゼンテーションを作成したりする)においては、それぞれ全国平均より20%以上高い結果となりました。さらに、学級の生徒と話し合うことや自分の意見をまとめて発表できるという意見交換や発表の力に関する質問項目でも、同様の差をつける高い結果が出ました。こうした成果は、昨年度より本校が取り組んでいる、生徒が主体的に学ぶ姿勢を重視した授業づくりや学校行事の実践の成果であり、生徒一人ひとりが「自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す」といった力(エージェンシー)を発揮している証であると考えています。

終わりに、昨年度と同様「学校に行くのは楽しい」と回答した生徒は平均値よりも上回りました。この数値がさらに伸びるように、全職員が生徒一人ひとりに向き合い、生徒が自主的に学習に向き合う姿勢を育む教育活動を実践していきたいと考えております。

※実施された「全国学力学習状況調査」の問題及び調査結果等については、国立教育政策研究所のWebページに掲載されています。